

第3回砺波市行政改革委員会の会議録（要旨）

- 1 開催日 平成25年2月14日（木）午後1時30分～午後3時35分
- 2 場所 砺波市役所 3階 小ホール
- 3 出席者 東委員、飯田委員、石黒委員、稲葉委員、岡部委員、佐藤委員、坪本委員、中西委員、山本委員、吉田委員、吉原委員、市長、副市長、教育長、企画総務部長、福祉市民部長、商工農林部長、建設水道部長、庄川支所長、教育委員会事務局長、財政課長、企画調整課長、総務課長、総務課行政係長、総務課人事係長、総務課法規文書係長、総務課行政係主任
(加藤委員、五島委員、瀬尾委員は欠席)

4 説明及び協議内容

- (1) 前回の質問事項について説明の後、今年度の行政改革の進捗状況及び来年度に実施予定である行政改革について、行政改革推進計画について、各専門部会における調査研究テーマの検討結果について説明等の後、意見交換を行った。

5 意見の概要

- ・行政改革推進の体制について、これまで行政改革委員会は行政改革推進本部会議からの報告について、提言・意見具申するとあったが、今回は全般についての検討依頼となっている。どのように変わったのか。(委員)
⇒行政改革委員会と行政改革検討委員会の関係がわかりにくいとのご指摘あったため、今回、整理させていただいた。行政改革委員会は市の行政改革全般について検討依頼しており、検討委員会は平成25年度においては施設の統廃合について設置するなど、特定の項目に対してご意見をいただく機関であることから、全般と特定項目と分けて表示させていただいたもの。(市)
⇒行政改革委員会は、全般について検討すると十分に議論できないことから、ある程度絞ったテーマで検討すべきである。今後の検討内容は、重点項目に絞ればどうか。(委員)
- ・市の行政改革は改善志向であるとともに、きめ細かく実施しており、評価できる。改革・改善は永遠であるので、引き続き頑張りたい。(委員)

- ・行政改革報告書の平成25年度に実施を予定している市民福祉の推進項目として「病児・病後児保育事業の実施」が挙げられているが、放課後児童クラブの体制の見直しについても項目に挙げて欲しい。(委員)

⇒放課後児童クラブの施設改修については新年度において計画しているところであり、適宜、項目に挙げていきたい。なお、運営等の改善については、放課後児童クラブ運営委員会の方々との話し合いにより恒常的に行っており、項目として挙げるのが適当であるか検討したい。(市)

- ・行政改革報告書の平成25年度に実施を予定している項目に防災対策の推進として様々な項目が挙げられているが、防災訓練を行う際、自治振興会独自で加入している保険の援助をお願いしたい。(委員)

⇒市において保険に加入することや、保険に係る費用を補助することは考えていないが、どのような保険があるかについては調べる。(市)

- ・行政改革報告書の平成25年度に実施を予定している項目の「地区自治振興会への職員の派遣」については前向きな事項であると思うが、会議だけでなく、防災訓練や資源ゴミの回収、消防団など、地域事業への職員参加をお願いしたい。(委員)

⇒従来より、職員に対して地域行事等へ積極的に参加するよう指導しているところであり、今後も指導していきたい。(市)

⇒職員はもっと地域活動に参加するようにとのご意見であるが、職員はある程度地域活動に参加していると認識している。「地区自治振興会への職員の派遣」については、振興会の会議の中で、どのように物事が決まっていくのかを職員に見せたいという思いから実施するものであり、自治振興会との連携を図る一面のほかに、職員の研修という意味合いも一面としてあるので、受け入れをお願いしたい。(市)

- ・行政改革報告書の平成25年度に実施を予定している項目で「体育施設の使用料金制の見直し」とあるが、体育施設によって、管理方法や料金の徴収方法が異なることから、料金徴収マニュアルを作成していただきたい。(委員)

⇒この項目は、一部の体育施設について、使用料金性から管理している団体の収入として活用することができる利用料金制に統一するための手続きをとることを挙げている。施設の管理の仕方については、それぞれの指定管理者任せることから管理方法が異なっている。マニュアルの作成については今後検討したい。(市)

・行政改革報告書に平成24年度と平成25年度の行政改革や事務改善の項目が挙げられているが、どのような特徴をもって改革を進めるのかといったことが見えない。(委員)

⇒行政改革は、国の方針もあり、極めて長期の改革計画を立て、積み上げてきている。この委員会において議論する内容について、全般的か、特別にテーマを絞るかは意見が分かれるところであるが、委員の中には、もっと時間をかけ、特別にテーマを絞って議論したいと考えている方もいる。(委員)

⇒行政改革は、大きなテーマがあるとわかり易く、議論も明確化するが、ご指摘のとおり、長い期間取り組んでいると改革のポイントがわからなくなってきてしまう。市民に重点ポイントがわかるように、わかりやすくお見せする工夫をしていきたい。(市)

・行政改革報告書の平成24年度分には「保有財産の有効活用」についての項目が挙げられているが、平成25年度には挙げられていない。施設がどんどん古くなっていくので、後何年もつのかなどを考えていかなければならない。施設の維持管理は、かなりの費用を要する事項であるので、行政改革に含める必要があるのではないか。(委員)

⇒橋梁の長寿命化計画の策定については、平成24年度中に策定し、平成25年度から実施するため、行政改革報告書の平成25年度に実施を予定している項目には挙げていない。推進計画中には今後の実施について掲載している。(市)

⇒橋梁の長寿命化計画が掲載されていないという個別のことではなく、今後、施設の維持管理が必要になってくると思い、確認したもの。(委員)

⇒今後、施設の維持管理が必要であることは認識しており、個別に計画等を策定するものができれば行政改革報告書や行政改革実施計画に挙げさせてもらいたい。(市)

・行政改革報告書の平成25年度に実施を予定している項目として「城端線利用者の市営駐車場料金の割引」を挙げているが、高岡駅周辺に駐車することを考えれば、砺波市営駐車場に1週間駐車しても料金は300円程度であるので、これ以上安価にする必用はないと思う。それよりも、砺波には宿泊する場所がないこともあり、他県からの出張者は高岡に宿泊することが多いが、城端線に乗れば何かプレミアムがつくことを考えれば、市民が使う以上に他県からの来県者が城端線を利用すると思うし、砺波への宿泊者も増えると思う。施策のターゲットを砺波市民から他県からの来県者に移してみればどうか。(委員)

⇒駐車場については300円でずっと停めることができる駐車場というのは如何なものかと思っている。城端線の活性化のこともあり、城端線に乗られた方に

とって駐車場の利用が有利になるよう検討したい。(市)

- ・北陸新幹線の開業により関東方面とのアクセスは良くなるが、特急が金沢で止まってしまうため、金沢から大阪へのアクセスが問題となる。(委員)
- ・施設の使用が限られたり、料金を設定されたため、働く女性が土日に施設を利用することが難しくなった。市政において働く女性の力を活用するためにも、制度を緩めることを考えてもらいたい。(委員)

⇒施設の土日利用については、利用状況等を含めて検討したい。(市)

- ・行政改革報告書の「交流館の夜間利用」については、砺波市民との交流を目的とする市外の者が夜間利用できるものだが、市内の者も夜間利用できるようにして欲しい。子供たちに散居村の生活を体験させてやりたいので、是非お願いしたい。(委員)

- ・行政改革報告書の中で「防災士の養成」が挙げられているが、今後、女性も防災意識を向上させていくことが大事であると思っているが、現在、防災士の有資格者の中に女性は含まれているか。(委員)

⇒防災士は、防災に関する専門的な知識を普及しようとの目的でできた資格。防災士の方には、地域において、防災計画を建てたり、中心的な役割を果たしていただきたいと考えている。当市においては、今後、防災士の有資格者を100名程度に増やし、地域防災を活性化させたいとの思いから、自主防災組織からの推薦に基づき、資格取得のための助成を行っている。郵便局の女性の方が数名、防災士の資格を取得されていると聞いているが、自主防災組織からの推薦は今のところはない。是非、女性の資格取得の働きかけをお願いしたい。(市)

- ・行政改革推進計画のうち、「訪問介護事業のサテライト事業所設置」、「観光振興戦略の推進と観光関連事業やイベント等の見直し」、「保育所及び幼稚園の整備について」、「空き家の有効活用の推進」、「広域連携による事務事業の推進」、「橋梁長寿命化修繕計画の策定及び推進」及び「下水道事業特別会計の企業会計への移行」については、今後、市が取り組む課題として重要だと思う。(委員)

- ・行政改革推進計画の「広域連携による事務事業の推進」に挙げられている砺波医療圏医療情報連携ネットワークとは何か。(委員)

⇒救急医療を担う大きな病院（砺波医療圏では、市立砺波総合病院、南砺市民病院、南砺中央病院、小矢部中央病院）が、投薬情報やレントゲン写真など、限

られた情報であるが、本人の了解のもと閲覧することができるようになる仕組みのことである。診療所などでも閲覧することができるようになる。(市)

- ・空き家問題に非常に興味を持っている。空き家問題は、今後大きな問題になってくると思うが、村部だけの問題ではなく、市街地においても高齢者が多いことから、今後問題になってくると思う。この問題を解決していかないと、街自体が変わっていってしまうので、予算をつけて、しっかりと取り組んで欲しい。(委員)

⇒空き家対策については条例を提出し、しっかりと取り組んでいきたいと考えているが、持ち主と市民の役割を明確化したものにしたいと考えている。(市)

- ・少子高齢化がすごい勢いで進行している。行政側から見た行政改革は「無駄遣いをやめよう」というスタンスであることは理解しているが、逆の視点を持って「少子高齢化に取り組む」といった行政改革を行って欲しい。(委員)

⇒高齢化については十分認識しており、きめ細かな施策を実施したい。(市)

- ・散居村などの景観については、砺波市だけでなく、南砺市や小矢部市と協力して取り組んでいかなければならない課題であると思う。(委員)

⇒散居村などの景観については、南砺市や小矢部市など、関連市と連携を図りながら取り組みたい。(市)

- ・現在、ふるさと納税はどうなっているか。ふるさと納税をしていただいた方に砺波の物産を送るなどの声掛けが必要ではないか。(委員)

⇒ふるさと納税について、啓発を図ってまいりたい。(市)

- ・公用車にワッペンをつけるなど、もっと若い者の知恵や意見を活用し、税外収入としての自主財源の確保に取り組んでもらいたい。(委員)

⇒税外収入として、例えばネーミングライツがあるが、市民感情等もあると思うので、いろいろと研究したい。(市)

- ・環境対策の推進については、個別項目で行政改革を実施するのではなく、方針立てをし、市全体で対応されればどうか。(委員)

⇒環境対策については、施策として実施する広義の立場と、市を一つの事業所として捉えた狭義の立場の2種類があるが、行政改革報告書などの項目は狭義の立場として挙げているものであり、ご理解いただきたい。(市)

・平成25年度において設置予定の行政改革検討委員会は非常に重要な委員会であるので、充て職などではなく、適材適所の人選をお願いしたい。(委員)

⇒これまでと同様、検討課題について、しっかりと議論いただける方を人選していきたい。(市)

・防災対策についてだが、地震が起きると電気が止まり、携帯電話の回線がパンクするといった状態になる中で、行政が最も知りたい情報を持っている各自治振興会単位で組織する自主防災会との連絡方法が問題になるのではないかと。ここで、今、何が起きているのかといった情報が、連絡方法が途切れたため、現場まで行かないと手に入らないということにならないよう、無線の整備、それも電気が止まっても使えるように、バッテリー式のものを整備すれば良いと思う。以前にも話しているが、私の地区では交信範囲の短い無線を準備し、個人に配置している。このような方法は有効だと思うので、市でも検討されたい。(委員)

⇒防災対策については、防災行政無線を根本的に見直そうと思っている。その際電源問題や地区自治振興会との連絡についても検討したい。(市)

・自治振興会とは一体何なのか。行政は自治振興会をどのように位置づけているのか。自治振興会によっては温度差もあり、行政からの情報が末端まで届いているのか疑問である。(委員)

⇒各地区における様々な取り組みを実施するため、自治振興会という組織を作って取り組んでおられるものと認識している。自治振興会は各常会長や町内会長などにより構成されたピラミッド型の組織であることから、従来より、市からの依頼事項については、自治振興会を通じて行っているところである。(市)

⇒最近、様々な自治体において、現場をよく知る自治会等に対応を依頼するといった事例が増えている。(委員)

⇒自治振興会は、行政の下請け機関とか情報伝達機関ではなく、行政のパートナーであると認識している。(市)

・行政改革とは、効率化と経済効果である。砺波市は、行政改革のうち効率化を求めているが、経済効果についてもっと考えて欲しい。砺波市の人口は5万人であるが、集客人口は7～8万人はある。将来的には10万人の集客ができるような取り組みを行ってほしい。(委員)

・行政改革は層別を実施すれば良い。日常業務の改善は部長、各部署にまたがる改善は市長や副市長、市民生活に多大な影響を及ぼすものは行政改革委員会に

諮るようにすれば良い。(委員)

⇒どこの範囲で、どのように対応するかという点ではご指摘のとおりであるが、書き方、表現の仕方などで対応したい。(市)

- ・地方分権改革の中で、様々な仕事が自治体に移譲されてきた。今までどおり、国や県の方針だからといった考えでは済まない時代になっているので、今後とも、職員一同、気を引き締めて取り組んで参りたい。(市)